

とあり、必須外国語は英語のみと再転した。

(3) 独逸語学の再興<sup>⑦</sup>

是において大学は評議會を開き医科に至るまで皆英語を用いて教授することに一決した。ところが明治廿二年森有礼文部大臣が遭難し、榎本武揚氏その後任になってから前達を取り消す旨を高等中学校に達せられたので従来通りの外国語によって就学可能となった。

- ① 中野操 皇国医事大年表 一九八頁
- ② 原口忠男 日本医史学雑誌 二六卷三号 六三頁
- ③ 阿知波五郎 第六四回日本医史学会總會 特別講演(四)七③
- ④ 蒲原宏 整形外科一三卷一二号 九四六頁
- ⑤ Ralph H. Major A History of Medicine p. 763
- ⑥ O.H. Wangenstein & S.D. Wangenstein The Rise of Surgery p. 578
- ⑦ 東京医事新誌 明治二十三年(上) 五七〇頁

## 私立医学校濟生学舎のこと

神谷 昭 典

私立医学校濟生学舎は、明治九年(一八七六)四月、長谷川泰が本郷元町一丁目の自宅に開いた医学私塾である(ただし外塾は水道橋)。長谷川は越後の人、佐倉順天堂に学び、維新後東京医学校に出仕し、佐藤尚中致仕のあととも尚中門最後の一人として五年九月東京医学校校長心得となった。

今般医学私塾を開き教員を設け解剖生理病理薬劑および内外諸科を教授せんとする有志の諸君は来る三月二十五日迄に御申込可有之

月謝一円東修一円五十銭

但し当分のところ寄宿生徒は二十五名を限り其余は通学

(開業廣告九年二月、郵便報知第九二号)

言うまでもなく、濟生学舎は明治期を通じて最大の私立

医学校で、明治三六年八月三十一日のドラステックな廃校に至るまで、入学者二、四九四人、医術開業試験前期および後期合格者九、六二八人、東京以外で開業試験に合格した者二千余人、全国開業医の半ばに達したという。(廃校宣告明治三六年八月、郵便報知)

そうして済生学舎は、「現代から見ると、まるでお伽ばなしにでもありそうな気がする位に、変った学校であった」(和田正系)とされる。その「変った」点の中心は、学生の入学資格、入学時期の一切を問わず、学生は聴講料を払って医術開業試験六科の講義を必要に応じて選択聴講するという点にあった。

これは当時医学に次いで多くの書生を集めていた私立法律学校にも共通する制度であるが、アメリカの *affiliate college* (京都帝大法学部と立命館の如き)とともに、ドイツなど大陸系大学の自由就学制がモデルになっているよう。いわゆる「*Lernfreiheit und Lehrfreiheit*」というドイツ大学制度の日本的ヴァリエーションといえるであろう。

このころ官立モデルの東京医学学校(↓東京大学医学部)は、プロシヤ陸軍軍医学校 *Pepiniere* を模して鋭意学制改革中

であった。独医ミュルレルの通訳官三宅秀のいう「当時のドイツ式自由教育制度をとらず、主としてドイツ陸軍軍医学校の厳格なる教則に準じ……」がこれに当たるであろう。すなわち、わが国の近代医学教育は、ヨーロッパの古い *Universitas* の伝統を引く私学モデルと、ナポレオンによる *écoles spéciales* の系譜を引く官学モデルとに類型化できらるであろうか。

さて、済生学舎の学則は一二年の「医師試験規則」の改正にあわせ、かつ失火による全焼、再建を経て、一三年やや整備したものとなり、また一六年の本格的な医術開業試験規則施行を目前にして、湯島四丁目の一、三二〇坪の校地に新築移転し、「東京医学専門学校済生学舎」と称した。この改称は一三年の「医学校通則」と一五年の太政官布達四号を受けたものである。この規則と布達により医学校は医術開業試験を要しない甲種と、試験を要する乙種に区分けされ、甲種医学学校の指定要件には医学士三名の雇庸が要求された。済生学舎(乙種)の如き私立医学校が、試験免除の特典を取るか、創業の精神を守るかで苦慮する時代の開始である。

済生学舎は二〇年に薬学科を増設、二四年からは顕微鏡実習、外科的実地演習なども始まり、二六年からは廢校に至るまで一〇年間、全一二八号にわたって月刊學術雜誌「済生学舎医事新報」を發行した。

また明治一七年、愛知県西尾市出身の高橋瑞子によつて、済生学舎の門が女性に初めて開かれたことも特筆しておかねばならない。

その済生学舎を、明治三六年、長谷川はなぜ投げ出さねばならなかったか。

入沢達吉は、長谷川が文部省にむり難題をふっかけて専門学校として認可させないようにした。結局金を出し惜しんだのだという。

長谷川自身は、

文部省、令を發して私学を拘束す。

蘇山之を争へども得ず。

憤然自ら生徒を謝して学舎を閉づ。(北越詩話)  
というのである。

長谷川は、既に明治二二年、二万三千円を投じて本郷真砂町の府立梅毒病院跡地を入手し、済生学舎門柱には「東

京大学設立事務所」の看板を掲げていた。

のちに長谷川をして、「二八年間培養したる一人息子を九寸五分で刺殺したる心境」と言わしめた済生学舎廢止の事情を究明する。

(中京女子大学)